

多摩川 360° ツアー

The Tama River 360° Tour

多摩川

多摩川は、東京都と神奈川県の間を流れる全長138kmの1級河川です。山梨県笹取山に端を発し、東京湾まで注ぎ込む川で、流域面積は1,240km²に及びます。江戸時代から玉川上水を通じて江戸市中に飲料水を供給するなど、東京の発展を支えてきた川です。

上流域は川の両岸に鬱蒼とした木々が迫る渓流です。流れが緩やかで大きな岩がいっぱい転がっている場所は、魚たちの隠れ家にぴったりです。中でも目立つのは黒っぽい斑紋が特徴のヤマメです。

上流域から40kmほどの中流域は川幅が広く、草木が茂る中州が点在しています。小魚たちにとって茂みの影は暗く、敵から身を守る場所になっており、オイカワやカワムツの稚魚が見られます。河川の氾濫を防ぐために沈められた消波ブロックには、たくさんの魚が群れています。また、ここではブラックバスなど、もともと日本には生育していない魚が放流されて繁殖しています。中流域は人の暮らしの影響を受けて独特な自然が広がっています。

下流域は大きな流木など、いろいろなものが流れ着く場所です。東京湾が近く、海水が流れ込むため、クロダイやスズキなど海の魚がたくさん来ます。下流域は川と海の交差点のような場所なのです。

多摩川流域地図

【見られる生きもの】

上流域

サクラマス (ヤマメ)	成長すると海に下る個体も多いですが、一生を川で過ごす個体もあり、これをヤマメといいます。水の冷たい上流に生息します。
アユ	春先になると、多摩川をのぼって上流を目指す姿が見られます。岩についたコケを食べます。



サクラマス(ヤマメ)



アユ

中流域

コイ	実は東京都内に生息するコイは大陸から来た外来のものやそれと混雑したものです。在来のコイは、現在、琵琶湖など限られた場所のみに生息します。
コクチバス	人の手による放流により、野生化したものです。もともとすんでいた魚を食べつくすなどの悪影響が懸念されます。
フナの仲間	身近なフナの仲間でも、都外から放流されていたり、別種と交雑していたり、複雑な状況にあることがわかってきています。
ナマズ	泥がたまる、流れが緩やかな川を好みます。川底で獲物を待ち伏せします。



コクチバス



ナマズ

下流域

クロダイ	海や汽水域に住み、カニや海藻、スイカまで食べる雑食性の魚です。
スズキ	セイゴ⇒フッコ⇒スズキと大きくなるにつれて呼び名が変わる出世魚です。
モクズガニ	ハサミや足などに、細かい毛が生えていることから、この名がついています。 海や川を行き来して暮らしています。



クロダイ



モクズガニ

多摩川を守るために

高度経済成長期の1960年代以降、工場排水や生活排水のために、下流域では水質汚染が広がり、生きものの住みづらい川になってしまいました。

その後、排水規制や下水道の整備などにより水質が大幅に改善し、現在、多摩川水系で確認されている動植物は*4,000種以上にのぼるなど多種多様な生きものたちのすみかになっています。しかし、同時にゴミの不法投棄、外来種放流による生態系被害など、人の手などによりもたらされる、さまざまな問題が顕在化しています。

多摩川の生態系を守り、より良くしていくためには、私たち一人一人の正しい理解と行動が必要です。

*国土交通省「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」より

